



ほ な み

穂 立

第5号

令和5年9月4日発行

<https://toyoura.shibata.ed.jp> (随時、日記更新中!!)

2学期スタート！ 1学期学校評価を踏まえて

校長 小嶋 修

35日間の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。体育祭や合唱コンクールなど、様々な体験を通して、これまでに蓄えた力を思い切って発揮し、失敗を恐れず挑戦してほしいと願っています。

18歳意識調査「第46回-国や社会に対する意識調査(6カ国調査)-」報告書(2022年3月24日、日本財団)というものがあります。これは、日本・アメリカ・イギリス・中国・韓国・インドの17歳から19歳の男女1000名を対象に行った調査の報告です。インターネットによる調査ですので、インターネット利用者に調査協力が限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも妥当だとするものではありませんが、一つの参考指標としていくつか紹介します。

- ・自分の国の将来について、日本は「良くなる」が13.9%と、6カ国中最下位
- ・日本は「自分には人に誇れる個性がある」「自分は他人から必要とされている」「勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある」「自分のしていることには、目的や意味がある」「自分の人生には、目標や方向性がある」で、6カ国中最下位
- ・自身の将来や目標に関する質問で、全ての項目で日本は6カ国中最下位

しかし、この夏、夢や希望をもって躍動している高校生を数多く目の当たりにしました。慶応義塾高校が107年ぶりの優勝を果たした第105回全国高校野球選手権記念大会もその一つでした。自分の言葉で語る高校生も心強く思いましたが、この決勝で連覇を目指しながらも敗れた仙台育英高校野球部 須江航監督の言葉がとても印象的でした。

「慶応がただただ強かった。完敗です。選手たちも最高のプレーをしてくれた。点差は開いたけれど、今まで以上の最高のベストゲームだった。2年間で頂点、そしてあと1つの悔しさ、共に味わうことができた。人生は敗者復活戦です。この経験を次に生かします。2年続けてこの決勝の舞台に連れてきてくれた3年生に対して感謝を伝えたい」

敗戦直後、相手をリスペクトしつつ、自チームの選手への賞賛を忘れず、前を向いて力強く「人生は敗者復活戦」と語りました。様々な努力を重ねてきた高校生たちは、敗戦にくじけず敗者復活戦へ進み、将来を切り開いていくのだと感じました。

2学期は、生徒が勇気をもって挑戦し、失敗しても次に生かして逆境を乗り越えていく力を身に付け、自分のよさに気づけるよう最大限サポートしたいと心に誓う夏でした。

1 学期学校評価を基にして、充実した2学期にするための取組についてお知らせします。

<生徒アンケートの結果>

	アンケート項目	R5.7月	R4.7月
1	平日の学習時間2時間以上	7	4
	平日の学習時間1時間以上2時間未満	50	60
	平日の学習時間1時間未満	43	36
2	授業の内容がよく分かる	95	93
3	授業の話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている	96	90
4	地域と連携（交流）する活動を通して、地域への興味・関心が高まった	92	87
5	学校生活が楽しい	98	92
6	学級の居心地がよい	97	94
7	あなたの行動は学校や学級で人の役に立っている	85	77
8	自分にはよいところがあると思う	84	83
9	先生はあなたのよいところを認めてくれている	95	93
10	学級や学年にあなたのよいところを認めてくれる人がいる	97	92
11	誰に対しても優しく接し、思いやりのある行動をとっている	97	93
12	あいさつを誰とでも積極的に交わしている	99	93
13	時と場に応じた礼儀正しい行動をしている	99	95
14	難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している	85	88
15	いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う	100	98
16	学校のきまりを守っている	99	94
17	将来の夢や希望をもっている	78	80
18	朝食を毎日食べている	94	91

<知の分野>

【評価項目1】 「授業の内容がよく分かる」と答える生徒を85%以上にする

授業の内容がよく分かる（肯定的評価）→95%

A評価

【評価項目2】 「授業の話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている」と答える生徒を85%以上にする

自分の考えを広げたり深めたりしている（肯定的評価）→96%

A評価

【今後の取組】

感染症に関わる規制が緩和され、従来の交流活動や体験活動等の学び合う場を取り戻し、互いに認め合い高め合う充実した学びが展開されています。この前向きな学びを確かな学力の育成につなげることを目指し、一層授業改善の取組を推進します。

夏休みには、NRT全国標準学力検査の結果等の分析を行い、生徒の強みや弱みを踏まえた各教科の授業づくり研修を行いました。日々の授業の中で、生徒の「分かる」「できる」を積み上げていきます。また、5教科（国・社・数・理・英）の授業では毎回課題を出していますし、毎日「自学」に取り組むよう全ての学年で指導しています。ぜひご家庭でもお子さんにお声かけと見守りをお願いします。

<徳の分野>

【評価項目1】 「自分にはよいところがあると思う」と答える生徒を80%以上にする

自分にはよいところがあると思う（肯定的評価）→84%

A評価

【評価項目2】 「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」と答える生徒を100%にする

いじめはどんな理由があってもいけないことだ（肯定的評価）→100%

A評価

【今後の取組】

感染症に関わる規制が緩和され、従来の教育活動を取り戻しつつあります。2学期は生徒同士が学年・学級を超えて関わる活動も多数計画しています。「スクールネットワーク活動（学校行事等の活動を通して、互いの気持ちを伝え合う活動）」を中心に、他者と自分自身の良いところに向け、肯定的に受け入れていけるように意識づけて諸活動に取り組み、自己肯定感を高めます。「いじめ見逃しゼロスクール集会」では、豊浦小学校とも連携して「いじめをしない、見逃さない」地域づくりに取り組みます。

<体の分野>

【評価項目1】 体カテストで県平均以上となる種目（48種目）の割合を50%（24種目）以上にする。

体カテストの数値が、全県の平均値よりも上回った種目→28種目

A評価

【評価項目2】 「平日のメディア（テレビやゲーム、SNSなど）利用の合計時間が2時間以下である」と答える生徒を60%以上にする

平日のメディア利用時間が2時間以内（肯定的評価）→36%

C評価

※参考評価項目 平日のメディアの利用時間

時間	R5.7月	R4.7月	R3.7月
3時間以上	26%	22%	17%
2時間以上3時間未満	38%	39%	43%
1時間以上2時間未満	31%	35%	36%
1時間未満	5%	4%	4%

【今後の取組】

昨年度に引き続き、6月、9月、11月、1月の計4回「生活習慣チェックウィーク」を実施します。この期間を生かして、メディア機器の利用時間を自分でコントロールする力を付けてほしいと考えています。継続して、メディア機器の長時間利用が心身に及ぼす影響を指導するとともに、メディア機器利用の実態を把握するアンケートをとり、改善策を検討します。ご家庭では、日々の生活の時間の使い方やメディア機器利用の約束についてお子さんと話し合い、メディアへの有効なかかわり方（健康的な生活を維持するためのメディアバランス）を考える参考にいただければ幸いです。

<保護者アンケートの結果>

	アンケート項目	R5.7月	R4.7月
1	お子さんは楽しく学校に通っている	89	88
2	お子さんは積極的にあいさつをしている	84	85
3	お子さんは学校のきまりを守っている	92	86
4	お子さんは毎日朝食をとっている	91	91
5	学校はお子さんのよいところを認め、伝えている	92	87
6	お子さんは毎日60分以上家庭学習をしている	49	31
7	お子さんの平日のメディア（テレビ、パソコン、ゲーム、携帯電話、SNS等）に接する時間は2時間以内である	18	72
8	お子さんはネットにつながる通信機器をもっている	96	95
9	お子さんのネット通信機器の使用について話し合いや約束をしている	89	84
10	お子さんはネット端末機器の使用を10時までとする「豊中SNSルール」を守っている	60	63
11	学校はたよりやHP等で生徒や教育活動の様子を伝えている	84	85
12	学校はいじめ問題の防止や解決に向けて適切に対応している	74	75
13	学校はお子さんの困りごと等の相談に誠意をもって対応している	84	78
14	学校は保護者・地域の声に耳を傾け連携・協力して教育活動を進めている	82	92

保護者アンケートで、学校の教育活動についてのご意見をいただきました。

○個別面談が毎回三者面談なのはなぜですか。担任の先生とじっくり話をする時間が短いように思います。

回答 生徒、保護者、担任の三者で、学校生活や家庭生活を情報交換し、課題や改善策を共有することが大切だと考えています。三者での面談後に5～10分ほど、保護者と担任の面談となりますが、時間が足りない場合は事前に申し出ていただければ調整をして柔軟に対応するよう努めます。貴重な面談の機会を有意義なものにするようご理解とご協力をいただければ幸いです。

お知らせ

夏休み明け、心配事や気になることがありましたら、スクールカウンセラーにご相談ください。お気軽に学級担任または担当（早川）までご連絡ください。